

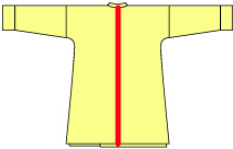
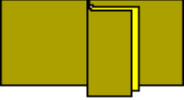

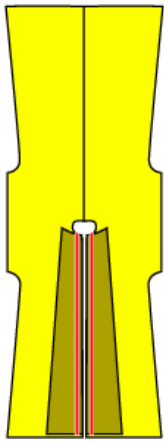

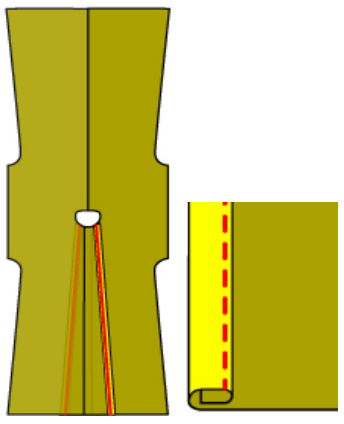
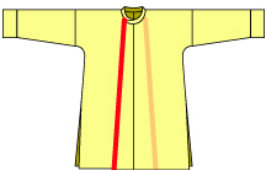
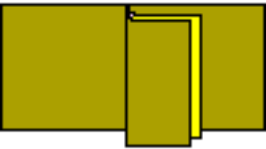

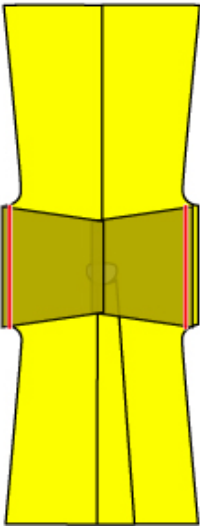

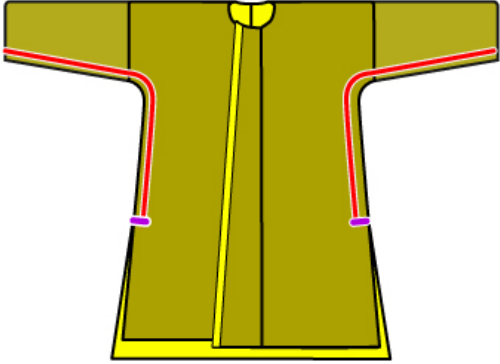
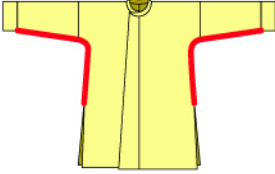
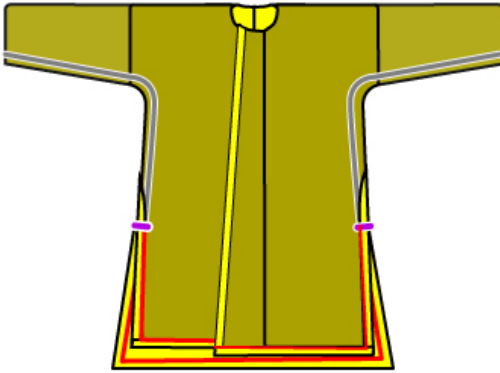


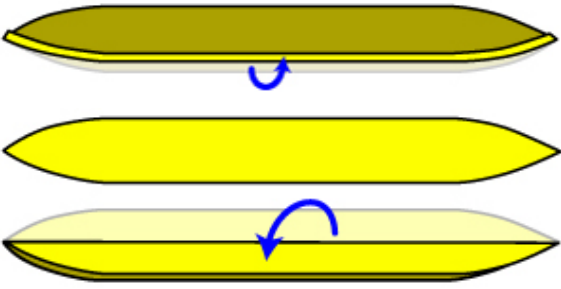
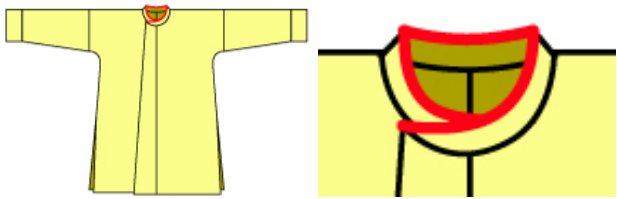
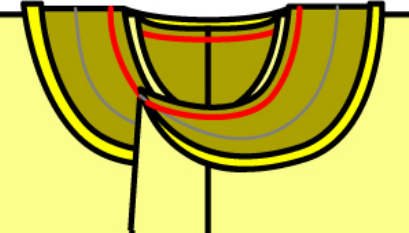
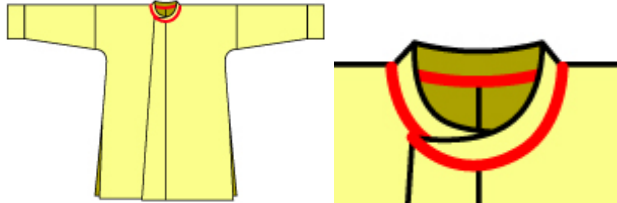


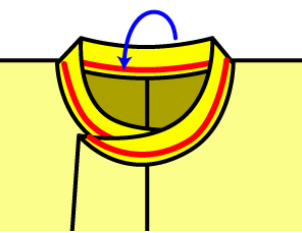




<p>■表 ■裏 ■接着芯</p>	<p>裁断した全てのパーツの端をほつれ止めをしてください。 型紙で指示されたパーツの裏に接着芯を付けてください。 くわしくは縫う前の下準備を参照してください。 お洋服に模様や刺繍を入れたい場合はこの時点で入れておくと楽です。</p>
	<p>実際昔の衣装の端はのりを使って巻いてほつれないようにしていたそうです (写真は護国神社の巫女さんの装束の写真・だいぶ古いものだったのでほつれかかっています) ただコスプレや、演劇の衣装の場合、このやり方をすると時間がかかるし、のりが生地について汚れたりしやすいので、普通にほつれ止めをしたほうが良いと思います。</p>
	<p>そで口を作ってください。</p>
	 <p>そで口の布を内側が表になるように折ってください。 端を合わせて縫ってください。 4枚作ってください</p>
	 <p>2枚のそで口の布を表同士が内側になるように重ねて縫ってください。 2組作ってください。</p>
	<p>そで口の布を表側にひっくり返してアイロンで形を整えてください。 ミシンで端から5mmの所を縫うと型崩れしづらいです。</p>

	<p>胴体を作ってください。</p>
	 <p>身頃(胴体)を表同士が内側になるように重ねてください。 後中心を縫ってください。</p>  <p>背中の縫い代は左身頃側へアイロンで折ってください。</p>
	<p>おくみを作ってください。</p>
	 <p>前身頃(胴体)に型紙に「おくみ」と書かれたパーツを表同士が内側になるように重ねて縫ってください。</p>
	 <p>おくみの端を三つ折りして縫ってください。</p>  <p>前中心の縫い代は身頃側に折ってください。</p>

	<p>そでを作ってください</p>
	 <p>身頃とそでを表同士が内側になるように重ねて縫ってください。</p>
	 <p>裏が見えるように半分に折って脇を縫ってください。 そで口から脇の型紙の印の所まで縫ってください。 印からはスリットです。</p>
	<p>すそと脇の縫い代を裏に折って縫ってください。 熱接着の両面テープを使って固定してもいいです。</p>
	 <p>襟(えり)を作ってください。</p>

	 <p>襟の片方の縫い代を半分に折ってください。 広げてえりをアイロンで半分に折ってください。</p>
	 <p>表にした身頃のうえに、裏が見えるように襟を重ねて縫ってください。</p>
	 <p>写真は護国神社の齋服を許可を頂いて撮影したものです (白の糸が出ているのは、劣化して糸が切れたもののようです) 紙をねじって縄にしたものにのり(ボンド)を塗り、紐状に切った布を巻いて作った紐をねじって、しゃか玉結びしたものを作る。 襟の先にはさんでください。 舞台上で早替えがある衣装の場合はスナップボタンにするといいとおもいます しゃか玉はアジアン結美を使うと簡単に作れます</p>
	<p>襟でえりぐりの縫い代を包んで縫ってください。 襟の中に厚紙を何枚か入れて芯にしてください 2~3mmのソフトボード(ライオンボード)などでもよいです えりの裏側を手縫いで縫い付けてください。</p>
	 <p>同じように紙に布を巻いた紐をねじってしゃか玉(ボタン)を受ける側を作ってください。 太い糸で固定してください。</p>

